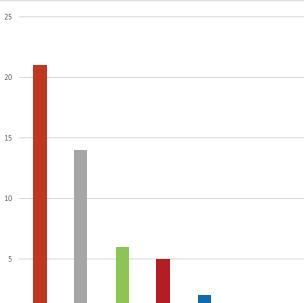


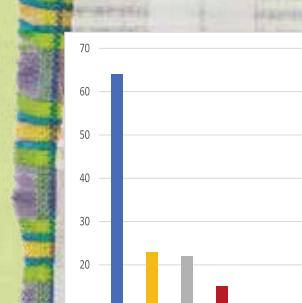
## 白幡池公園



① 1回  
② 7種 50頭  
③ 昨年は中止の一日限定秋スペシャル。今年は人數制限をして実施しました。区内の小学生を中心に約20人の子どもたちが参加しました。捕獲数最多のコノシメトンボ、後日菊名池で再確認されました。



## 富岡総合公園



① 5回  
② 6種 131頭  
③ 風致地区に立地し、樹林は鳥獣保護区に指定されている自然豊かな公園です。例年、オオシオカラトンボが多く捕獲されますが、今年はオニヤマが捕獲されました。



## 移動個体

1



3S72 ショウジョウトンボ ♂  
8/3 三ツ池捕獲 → 8/22 JFE 再捕獲

2



9C06 シオカラトンボ ♂  
8/9 貨物線の森捕獲 →  
8/22 ニツ池再捕獲

3



③ 3S71 オオヤマトンボ ♂  
8/2 三ツ池捕獲 →  
8/22 ニツ池再捕獲



4

9B10 シオカラトンボ ♂  
8/19 SMS 捕獲 →  
8/19 高田池再捕獲

5



6K\*\* ウスバキトンボ ♂  
8/6 キリン捕獲 →  
8/9 東横再確認

6



4K22 シオカラトンボ ♂  
8/4 キリン捕獲 →  
8/24 三ツ池公園再捕獲

7



Y008 コノシメトンボ ♂  
9/20 白幡池公園捕獲 →  
10/7 菊名池再確認  
再確認情報と写真は、市民の川崎まりこ氏からご提供いただきました。

# 今年のトンボ図鑑 2021

## タイワンウチワヤンマ

### ★2021年急増！（二ツ池）

元々九州南部や四国南部に生息していたが、近年生息域が東進、北上しており、京浜の森でも急増中である。腹部第8節の側縁が横にウチワ状に張り出るのが特徴だが、近縁種のウチワヤンマより小さい。ヤンマという名だが、ヤンマ科ではなくサナエトンボ科。

生息環境：抽水植物の繁茂する水面の開けた池や沼

## コノシメトンボ

### ★9月の「トンボとり大作戦秋のスペシャル」で多数捕獲（白幡池公園）

翅の先端がこげ茶色のトンボ。通年水を張っているプールでは多くの幼虫が発生するが、プール開きの前に成虫になれるのはどれくらいだろうか。雄は全身が真っ赤になる赤トンボ。

生息環境：明るく開放的な池、沼、水田、プールなど

## チョウトンボ

### ★マーキングするのに苦労します

大きな翅でヒラヒラとチョウのように飛ぶ。高い所をよく飛ぶので捕獲が難しく、網に入ると嬉しいトンボの1つ。加えて、翅は黒や藍色に光り、美しい。

生息環境：浮葉植物や抽水植物の繁茂する池や沼、河川敷の淀みなど



## ウスバキトンボ

### ★9月、日中の急な気温低下で木々に止まり、多数捕獲（入船公園）

透き通る下翅の幅は広く、長距離を飛ぶのに適している。春ごろから日本列島を南から繁殖しながら北上し、京浜地帯では7月頃から目立ち始める。広い芝生や草地のあたりでよく見られる。

生息環境：明るい池など止水全般。植物が乏しい人工的な水辺環境でも幼虫は生息できる。



## ノシメトンボ

### ★2010年以来、久しぶりに捕獲されました

コノシメトンボと同じく翅の先端にこげ茶色の斑紋があるが、体が大きい（赤トンボの仲間では最大）。赤トンボと言っても、あまり赤くならない。「ノシメ」は「熨斗目」に由来し、着物の柄置きの様式の1つで、肩・胸・裾に大きな横段に入る。名付けた人はノシメトンボの腹部の色がそのように見えたのだろうか？

生息環境：明るい池、沼、湿地、水田など



出典：じざいやさくらこのブログ  
<https://jizaiya.stars.ne.jp/>

## ハグロトンボ

### ★2021年初確認（富岡総合公園）

黒くて細いのであまり目立たないが、実は住宅地や街中でもヒラヒラと飛んでいることがある。以前は数を減らしていたが、近年は増加している印象がある。

生息環境：河川や細流、用水路

## シオカラトンボ

### ★最も多く捕獲されたトンボ

誰でも1度は見たことのある、ポピュラーなトンボ。雄は成熟すると腹部に白い粉を吹いたようになるのが名の由来だが、雌は黄色っぽいので「麦わらとんぼ」と呼ばれることもある。

生息環境：明るい開放的な池、沼、湿地、水田、河川の淀みなど



# トンボとり大作戦報告会・表彰式 ジュニア調査員養成講座参加報告 最終ミッション

## ● ジュニア調査員になるための5ミッション

- ①オリエンテーションに参加して調査について理解する
- ②トンボとり大作戦に10回以上参加する
- ③学習会に参加してトンボについて理解する
- ④8回以上調査に参加したら、はねに番号をかかせてもらう
- ⑤報告会に参加して学んだことを発表する 最終ミッション

●明星大学理工学部 非常勤講師・東京農業大学昆虫学研究室

客員研究員 田口正男氏

●ジュニア調査員養成講座受講者

稻田 巧さん(小4) 覚張 蓮深さん(小5) 覚張 淳喜さん(小3)

●司会 トンボはドコまで飛ぶかフォーラム事務局 國師裕紀子



ジュニア調査員養成講座では、6月にオリエンテーションに参加してもらったのち、参加者に5つのミッションを課しました。3名の子どもたちがこのミッションにチャレンジし、①～④のミッションをクリアしたうえで最後のミッション⑤を報告会にて行い、ジュニア調査員として認定されました。子どもたちは、半年間主体的に参加することで、大人もびっくりするような気づきを得てくれました。次年度からジュニア調査員として活躍してくれることでしょう。

## 最後のミッション!

～感想と田口先生への質問を発表してみよう～

覚張蓮深さん

トンボの捕り方と種類の見分け方を覚えることができました。

先生への質問

未成熟のトンボが成熟していくときにオスとメスで色がどうやって変わるのですか？  
インターネットで調べたところ、体の中の色素を酸化型から還元型に変化させているとありました。が、どういふことですか？



田口先生

広くて明るいところで活動するトンボは、紫外線の影響を受けます。紫外線はトンボにとっても有害です。例えば、シオカラトンボは、反射させることで対応しています。白いところはワッククスです。もう一つの対応方法が、蓮深さんが調べた方法です。アカトンボの赤は、その色素で紫外線の影響で発生する活性酸素（細胞やDNAを損傷）を自ら結合して取り除き、その害を防いでいます。

田口先生

子どもたちの質問が鋭くて  
先生も回答するのが大変そ  
うでした。

田口先生、ありがとうございました！



覚張淳喜さん

トンボとり大作戦に参加するようになつて、トンボのよきいる場所がわかりました。例えは、ギンヤンマは池によくいたり、ウスバキトンボは草地の上にいるのを知りました。

トンボのオスメスで色が違うのと違わないのがあるのはどうしてですか？

先生への質問



田口先生

それは高度で難しい質問ですね。トンボは未成熟の時期はどの種類もほとんど同じ色模様です。成熟すると異なつていく場合があるのは、オスとメスとで活動する場所が変わる、環境が変わらるからです。オスは、縄張りを守るために、日なたに出て紫外線をたくさん受けます。そのため、紫外線から体を守る必要と、ここが私の縄張りです！と主張する必要があります。一方、メスは、卵を産むときだけ、水辺に行けばよくて、普段は、日陰の林の中などにいます。そのため、紫外線から体を守る必要があまりありません。

ただ、比較的オスとメスが似ている種もあります。その場合は、オスもメスも成熟後も同じような環境で生活していると考へることができます。

稻田巧さん

夏はたくさんトンボが捕れたけれど、秋にアキアカネをあまり捕れなくなつて残念でした。テレビ等で田んぼの減少などの理由によってアキアカネが減つていると知りました。今年、どうしてアキアカネは減つているのですか？

先生への質問



田口先生

トンボの数の問題は非常に難しい問題です。一つは、増えたり減つたりするのがどうして起じるのかということと自体が難しい問題だということです。もう一つは、本当に増えたのか減つたのか知ることが非常に難しいという問題です。つまり、数は減つていないのに、私たちの見えるところに出てこない場合は減つたように見えます。田んぼの減少やネオニコチノイド系殺虫剤の問題などもありますが、今年アキアカネをたくさん見られた場所もありました。私が住んでいる相模原では、一昨日、近くの川沿いの陽だまりにアキアカネがいっぱいいました。その年々の気候で、夏から秋に変わつていくとき、秋が進んでいくとき、によって、トンボたちが選ぶ場所になかつたのかもしれません。

アキアカネはフライヤー<sup>①</sup>のトンボで、フライヤーのトンボは数を把握しようとするところが非常に出てしまふ種類なのです。だから、数については、今年どうなのかといふことに非常によく注意して追つていくと面白いのではないかと思います。

\* 1 フライヤー：飛び回ってメスを探しながら待つトンボ。パーチャーは、じっと止まって、時々周辺を飛んでメスを待つトンボのことをいう。

# ジュニア調査員 MVP表彰

2019年から始まったジュニア調査員認定制度。本調査をはじめ多くのイベント等にも参加し、大いに活躍したことから、次の2名がジュニア調査員MVPとして表彰されました。

工藤祥真さん(中1)

國師泰行さん(中1)

Q1 今年参加した活動で印象に残っているのは何ですか。  
その理由とともにお願ひします。

工藤…二ツ池での本調査。理由オオヤマトンボなどたくさんとれたから。

國師…三ツ池で例年ではあり得ないほどウスバキトンボが少なかつた事。理由はシンプルに普段大量に採れる数のトンボが採れなかつたから。

Q2 今後取り組んでみたいのはどのような活動ですか。

工藤…去年と一緒に大作戦や本調査。

國師…時間帯や場所をもう少し変えた時に採れる種や数がどのように変わるのが調べてみる様な活動。

Q3 新たにジュニア調査員を目指しているみなさんにはひとこと。

工藤…がんばれ!

國師…みんなが思っている以上に大変だし、面倒臭いけど、色々な所に行けるし、素晴らしい経験に繋がると思うから、是非頑張って欲しい。



大活躍した MVP の二人

# 横浜市環境教育 出前講座

今年度から環境創造局の環境教育出前講座登録団体となりました。「トンボのとり方教えます」というタイトルの講座ではトンボを通じ生きものの不思議さと自分たちが生活する環境について直接体験ができるようにしています。この活動を通してSDGsを自分事としてとうえ行動する子どもたちを育てることをねらいにしています。

2021年度には十日市場マイライスクラブ、山元小学校、斎藤分小学校、庄戸小学校で出前講座を実施しました。斎藤分小ではプールのヤゴとりから始まり、教室での羽化観察や校庭のビオトープの水やりや植栽の手入れを行い、トンボが飛んで来るようになりました。来年度、さらに多くの学校や団体と関わりを深めていきます。



斎藤分小学校 4年生 STB トンボ大作戦

# 20周年に向けて トンボフォーラム

横浜市では「横浜みどりアップ計画」（平成21年度）の実施以前から、京浜臨海部において「京浜の森づくり」に取組んできました。臨海部にある複数の企業と協働でビオトープづくりなど工場緑化の取組を進め、これまでに100ha以上の緑地が創出されました。市民、企業、行政が参加する「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」では、京浜臨海部におけるトンボの移動調査を行うことで、「京浜の森づくり」による生物多様性の保全効果が明らかになり、市民活動や企業の環境貢献に対する代表的な取組として紹介されるようになっています。「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」20周年に向けて、本市としても市民、企業の皆様と「京浜の森づくり」をよりいつそう推進してまいります。

(横浜市環境創造局みどりアップ  
推進課)

## 企業緑地

2003年	5か所	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ガス㈱環境エネルギー館</li> <li>東京電力㈱横浜火力発電所</li> <li>キリンビール㈱横浜工場</li> <li>JFEエンジニアリング㈱鶴見事業所</li> <li>日本ピクター㈱本社工場</li> </ul>
-------	-----	--

初回の調査地点